巻頭言

女性技術者ネットワークの必要性－男女共同参画週間に寄せて

内永（うちなが）　ゆか子

2005年、IBMの中で「COSMOS」という、女性技術者コミュニティーを設立した。ダイバーシティ施策の一環として、1998年から実施していた「ウィメンズ・カウンシル」の活動が、目標としていた女子社員比率の増加や女性管理職の増加（女性役員が１名から５名等）に一定の成果が見られたものの、「女性技術者・研究者の育成」が重要な課題として顕在化したためだ。

しかし、女性技術者育成の問題は企業のみにとどまらない。2005年のOECD（経済協力開発機構）の調査で、日本の理系学部における女子学生の比率は、調査対象13ヵ国中最低との報告があった。最近の若年層の深刻な理科離れが指摘されているが、中でも女子学生の理科離れは一層深刻だ。その原因として、「受験勉強での暗記学習で理科の面白さが失われてしまう」「理系に進んだ後のキャリアがわかりにくい」そして「女性に理科は不向きという固定観念」が考えられる。また、日本の研究者における女性の割合は１割程度にとどまっており、欧米の３割に比べ大きく水をあけられている。「第３期科学技術基本計画」「第２次男女共同参画基本計画」でも女性研究者育成の必要性に触れているが、まさに“科学技術立国”をめざす日本にとって、この状況の改善は急務と考える。

IBMでは女性技術者の発掘から育成まで積極的に取り組み始めている。先に述べた「COSMOS」では、女性技術者がさらに活躍しやすくなるための社内環境の提言の策定や自己啓発の仕組みづくりに取り組んでいる。また、女子中高生向け体験セミナー等の開催を通じ、学生へ理科の面白さを伝え、企業で働くさまざまな技術職、研究職の女性の姿（ロールモデル）を示す活動を進めている。これからは一企業にとどまらず、企業の枠を超え、女性技術者の育成から支援までをサポートする、日本の社会全体での「ヒューマンネットワーク」の確立が不可欠だろう。

■プロフィール　日本アイ・ビー・エム株式会社常務執行役員、ソフトウェア開発研究所長を経て、取締役専務執行役員開発製造担当（04年4月）。内閣府男女共同参画会議議員（03年4月）。文部科学省科学技術・学術審議会基本計画特別委員会委員（04年9月）。米国WITI（ウィメン・イン・テクノロジー・インターナショナル）殿堂入り（99年4月）。ハーバード・ビジネス・スクール・クラブ・オブ・ジャパン ビジネス・ステーツウーマン・オブ・ザ・イヤー受賞（02年11月）。